

らの分野が本質的な役割を持ち、再び位置天文学に成果が帰還してくる。なお位置天文学の精度の向上に伴い、測地学・地球物理学は地殻等の水平・垂直移動、鉛直線偏差などを通じて観測点の移動による補正をも与える。補正の一部として極く技術的な大気差のごとき要素も考慮に入れておいた。

われわれの目的は、位置天文学およびその隣接科学における概念、観測対象すなわち実体と現象、ならびに天体暦・基本星表のごとき生産物との間の論理的過程、観測・理論による導出過程、観測または理論構成に対する補正作用を明らかにすることに主眼点を置いたものである。

3. 体系図の説明

体系図の各構成要素や相互の関係を一つ一つ述べることは位置天文学そのものを解説することに他ならず、それを系統的に記述するのが困難であればこそこの図を作成したのである。前節に述べた基本構想により図の意味しようとするのはおのずから明らかであろう。図において便宜上、概念を長円形、実体を長方形、現象を左上隅を欠いた長方形、生産物を四隅を欠いた長方形で表わすことにした。もっとも前三者を厳密に区別することはほとんどの場合困難で無意味なことが多い。また論理的道程・導出過程は実線の矢印、特に理論的なものは破線、補正は主に---線（必ずしもそうでない線もあるが）で示した。鎖線で結ばれたものは本質的には同等でないが、現実的には代用されていることを意味する。また特に主流となる関係は太線であらわした。

念のため大まかに図の構成を述べると、(i)中央に極の設定を基とし太陽系天体から基本座標系を求める過程すなわち子午線天文学が主に関与する部分を、(ii)左側にこれらの過程における極運動・歳差等の補正を、(iii)右に恒星天文学における関係諸要素を配置した。また(iv)左下に時系関係のもの、(v)右下に測地学および地球物理学における関係要素である。図中最も基本的な概念（または観測対象）は極で、理論的基礎はニュートン力学と記した枠である。一般に流れは上から下へ、帰還は下から上に向かうように表わした。主流中“一般星”から“極”・“太陽運動”へ向う帰還、“基本面および基本軸”から“ニューカム太陽表”、“ニュートン力学”への帰還は逐次近似の思想を示したものである。ここで“ニューカムの太陽表”とはニュートン力学に基づく天体力学上の成果の集大成を象徴したもので、他の天体力学研究者の成果をもふくむものと解されたい。

4. 結 語

位置天文学における観測精度は相対論への考慮を必要

とするまでに向上しつつあるが、前述のようにここではニュートン力学を前提とし相対論の影響は補正という形で考えた。しかしニュートン力学に基づいて時空系を確立することは、おのずから相対論の効果を明確に浮き出させることになるであろう。また天文常数系の設定ということは位置天文学の最も重要な課題の一つであるが、この図では矢線の中に含まれるものであり、基本的にはニューカムの表への帰還という形で表わされると考えてある。次の機会に天文常数系の設定を主眼として系統図を作成する予定である。

この図は位置天文学の体系の大綱を示したもので、観測または論理過程の細い内容まではあまりにも繁雑となるので触れないことにした。体系図は学問の進歩とともに流動して行くのは当然で、この図は単に現時点におけるものを考えたに過ぎない。新しい観測事実や方法が見出されれば、もちろん新たな項目や新たな矢線の結び付きができるであろう。われわれはむしろこのような改訂を予想し、それらを考える素材とするために作ってみたようなものである。

この図は1968年8月、岐阜県蛸ヶ野で開かれた位置天文学懇談会に長期計画作成の資料として提出されたものを若干整理したものである。この会の席上ならびに後日種々の御意見、御批判を寄せられた飯島重孝、安田春雄、青木信仰、堀源一郎、松波直幸の諸氏に厚く感謝する。またこの図の提出を契機として、位置天文学関係の各氏がそれぞれの立場から系統図を作られる動きがあると聞き、われわれの図は不完全なものではあるが、これを作成した一つの効果であると考え、喜びに耐えない次第である。

学会だより

運営検討委員会の発足 昭和43年10月21日の理事会で種々討論した結果、理事長の諮問委員会として運営検討委員会を設けることになり、この委員会で定款改正を含めて運営方法を検討することになりました。期限は現理事の任期と等しく昭和44年5月までとし、理事会からは理事長、副理事長（2名）、庶務・会計各理事計5名が入り、各支部ではそれぞれ別々に特別会員より委員を民主的な方法で選出することになりました。支部選出の委員は（北海道）大谷浩、（水沢）佐藤弘一、（仙台）竹内峯、（東京）菊地仙、近藤雅之、笹尾哲夫、（名古屋）藤本光昭、（京都）小暮智一、若松謙一、（中国四国）成相秀一の計10名で、11月25日に第1回の委員会が開かれ検討が始められました。